

2019年度後期授業評価アンケート分析報告書

1. 全体の結果について

2019年度後期授業評価アンケートは次のような要領で実施された。

- 2019年12月16日(月)～12月21日(土)の日程 (集中講義は当該講義期間)
- 後期・通年(集中講義を含む)のすべての開講科目
- オンラインによるデータ収集(出席管理システム及び学内ホームページ)

全体の結果は【別紙】参照のこと。

2. 授業満足度との相関性について

授業満足度と高い相関をもつ要素をについて、相関行列をつかって、確認してみる。(1)ではゼミナール・卒業論文を除く科目について、(2)ではすべての科目について、結果をまとめている。

(1) ゼミナール・卒業論文を除く科目

授業満足度と相関の高い要素は、授業への「興味関心」、授業の「わかりやすさ」であった。(表1参照)

【表1】

	履修者数	回答比率	【2】興味関心	【3】難易度	【4】教員の熱意	【5】わかりやすさ	【6】教材の有効性	【10】学習時間	【11】授業満足度
履修者数	1								
回答比率	0.1327	1							
【2】興味関心	-0.1961	-0.230	1						
【3】難易度	-0.0597	-0.231	0.46697	1					
【4】教員の熱意	-0.2186	-0.188	0.79423	0.50692	1				
【5】わかりやすさ	-0.2638	-0.163	0.7505	0.45488	0.82603	1			
【6】教材の有効性	-0.1957	-0.245	0.71619	0.47328	0.76951	0.73679	1		
【10】学習時間	-0.0005	-0.190	0.31008	0.23638	0.30229	0.27614	0.29232	1	
【11】授業満足度	-0.1916	-0.210	0.78016	0.40672	0.66152	0.77801	0.6442	0.2967	1
(条件)ゼミナール・卒業論文を除く科目									

(2) すべての科目

授業満足度と相関の高い要素は、授業への「興味関心」、「教員の熱意」、授業の「わかりやすさ」であった。ゼミナール・卒業論文を含む科目では、「教員の熱意」も相関が高いことが確認できる。(表2参照)

【表 2】

	履修者数	回答比率	【2】興味 関心	【3】難易 度	【4】教員 の熱意	【5】わか りやすさ	【6】教材 の有効性	【10】学習 時間	【11】授業 満足度
履修者数	1								
回答比率	0.03882	1							
【2】興味関心	-0.30825	-0.0816	1						
【3】難易度	-0.13014	-0.1855	0.50363	1					
【4】教員の熱意	-0.32439	-0.0457	0.82532	0.51317	1				
【5】わかりやすさ	-0.36569	-0.0305	0.80438	0.47545	0.86301	1			
【6】教材の有効性	-0.25553	-0.0581	0.68830	0.45626	0.70935	0.69546	1		
【10】学習時間	0.01806	-0.2449	0.19071	0.21521	0.18073	0.14451	0.19825	1	
【11】授業満足度	-0.33525	-0.0405	0.81501	0.44938	0.73337	0.82246	0.62020	0.17239	1
(条件)すべての科目									

上記2つの相関行列の傾向は、過去の授業評価アンケートと大きく変化はない。過去の分析結果同様、個別の相関をみると、「興味関心」、「教員の熱意」、「わかりやすさ」、「教材の有効性」が高い相関をもっており、それら相互の関係により、授業満足度も影響を受けている。

学習時間とその他の要素の関係については、別途、「2019年度授業評価アンケート：自主学習時間に関する分析」で考察する。

3. 難易度×授業満足度について

千葉経済大学では、授業評価アンケートの結果にもとづいて顕彰者を選定している。2019年度は、「学生の主観的な難易度が高いに関わらず、授業の満足度の高い授業」について、担当教員を顕彰している。

評価項目として、「難易度×授業満足度」を次のように定義している。

$$\text{「難易度×授業満足度」} = \sqrt{(\text{「難易度」の平均値}) \times (\text{「授業満足度」の平均値})}$$

【表 3】

	履修者数	回答比率	【2】興味 関心	【4】教員 の熱意	【5】わか りやすさ	【6】教材 の有効性	【10】学習 時間	【3】難易度×【11】授 業満足度
履修者数	1							
回答比率	0.12801	1						
【1】興味関心	-0.27785	-0.19303	1					
【3】教員の熱意	-0.28826	-0.16016	0.815988	1				
【4】わかりやすさ	-0.33379	-0.13917	0.783262	0.84979	1			
【5】教材の有効性	-0.24342	-0.19199	0.703816	0.752242	0.719558	1		
【9】学習時間	-0.01557	-0.1937	0.276598	0.265065	0.220508	0.283585	1	
【3】難易度×【10】授業満足度	-0.23206	-0.23544	0.770574	0.720254	0.744497	0.658427	0.290167	1
(条件)ゼミナール・卒業論文を除く科目								

「難易度×授業満足度」について、他の要素との相関行列をとったものが表3である。この表によれば、「難易度×授業満足度」は、「興味関心」、「教員の熱意」、「わかりやすさ」と相関が高いことが見てとれる。

ただし、学習時間との相関が必ずしも高いわけではない。

4. 授業評価アンケート結果の評価について

千葉経済大学では、授業評価アンケートの結果にもとづいて顕彰者を選定する際、授業満足度だけでなく、他の要素との関連も考慮しておこなわれていることは先述した。ここでは、授業評価アンケート結果を評価する際に考慮している点について補足しておく。

図1は、回答率（履修者数に対する回答者数の割合）と授業満足度の関係をプロットしたものである。

【図1】

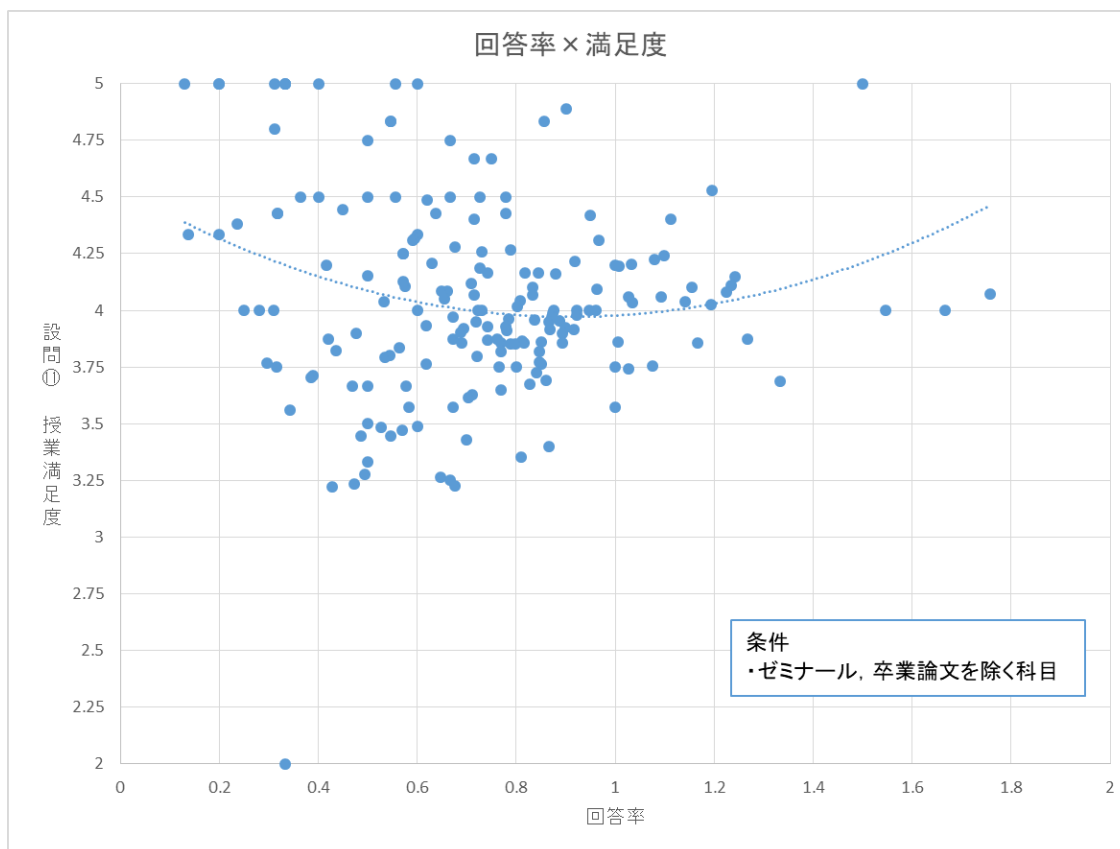


図1から、回答率0.3未満である場合や回答率1.4以上である場合では、授業満足度が高い（満足度4以上である）ことがわかる。これらは履修者の半数以上が回答していない科目や履修者が二重に回答している科目であり、授業満足度が単に高いだけで評価することには問題があると考えられる。

以上